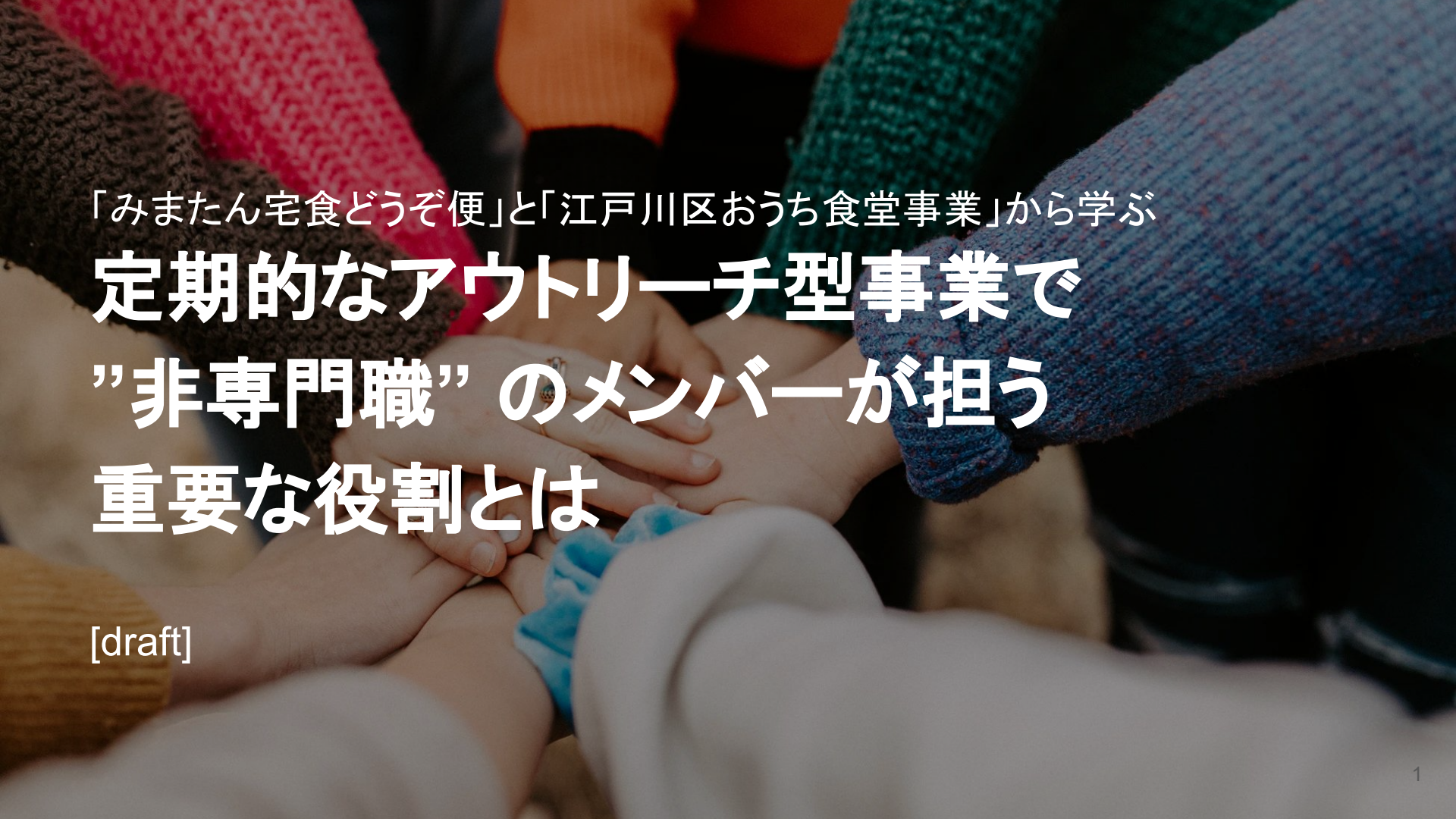

「みまたん宅食どうぞ便」と「江戸川区おうち食堂事業」から学ぶ

定期的なアウトリーチ型事業で”非専門職” のメンバーが担う重要な役割とは

[draft]

事業のイメージ：みまたん宅食どうぞ便

①その日の食材で作れるレシピ

②お米

③野菜

④調味料・缶詰などよく使う保存食

⑤すぐ食べられる惣菜パン等

事業のイメージ：みまたん宅食どうぞ便

① 寄付食品 集め

② 仕分け、梱包作業

③ 家庭への配送準備

④ 食材の手渡し

質問１
事業の「役割」は何だと思いますか？
利用家庭にどんな変化がでていますか？

家計負担軽減や食に関する養育スキル向上などの直接支援だけでなく、

状況把握

定期的な接点を持てるため、多くの情報を得やすくなる。
親や子どもの気になる様子や、家庭内の様子などから状況悪化の予兆や、**家庭の変化を把握**できる。

安心感・信頼感の形成（ラポール形成）

利用家庭に、自分達の状況を否定せず**受け止めてもらえた安心感**が芽生える。「自分を応援してくれる人達がいる」という実感や、ちょっとした話ができる相手の存在により、**孤独感が軽減**する。

行動変容（の準備）

・できていること、良くなったことに着目したフィードバック
・小さくても何か**困りごとを一緒に解決した経験**
などの積み重ねにより、親・家庭の**求援力・受援力が徐々に伸びる**。

※求援力＝「**支援を求めるサインやシグナルを表出する力**」、受援力＝「**人からの支援を受け入れる力**」。
「自助・自己責任の時代における新たな支援のあり方を考える ~福祉的課題を抱えた人の「支援を求める力・受ける力」の可能性に着目する」（横山順一 髙木健志）

質問２
訪問員にはどんな人が向いているか？

- 訪問員は**どんな人**が向いていますか？
- **研修**はありますか？**『これだけは気をつけて下さい』と注意喚起**していることはありますか？
- 家庭とボランティアのマッチングはしていますか？

全米で導入が進む児童虐待防止のための家庭訪問プログラム(HFA)の研究:

「既に虐待やネグレクトなどの問題が発生している場合は専門家による介入的な指導も必要。しかし、
予防的な支援では親の能力を認め、親自身が自ら育っていくのを支援する方法が有効」

家族の強みに着目しそれを積み上げていく支援方法(Strength Based Approach)	専門家が問題の改善に取り組むよう指導する方法(Deficit Based Approach)
・親と家庭訪問員がパートナーシップを結ぶ 家庭訪問員は ・親の欲求・ニーズに焦点を置く ・親の能力(ストレングス)の上に積み重ねるよう支援する ・家族が自分の目標に到達するのを支援する	・家庭訪問員が「専門家」という立場を保つ 家庭訪問員は ・家庭内・子育ての仕方などに何が問題かに焦点を置く ・家庭訪問者が問題の原因を見つけ出す ・家族は問題をどのように「直さねばならない」かを「指導」される

出典:児童虐待の予防を視野に入れた家庭訪問支援(その1)-Healthy Families America の家庭訪問プログラムの概要と日本の家庭訪問事業の課題ー白石淑江